天皇陛下御即位奉祝奉納提灯（令和元年 10 月奉納）

香雲

発行所
〒010-0946
秋田市川尻総社町14-6
総社神社
http://sosha-j.jp

日本書紀撰上 千三百年を迎えて

総社神社　宮司
川尻　孝紀

今年は日本書紀が編纂撰上されて丁度千三百年を迎えました。

歴史書として初めて編纂された日本最古の「古事記」（奈良時代、和銅五年・七一二年）完成から八年後の養老四年・七二〇年に成立しました。

日本書紀（以下書紀）は舎人親王・太安万侶が中心となり、日本の正史として漢文体・編年体を用い、神代から持統天皇までの事蹟が全三十巻にまとめられています。

七世紀はじめは、中国大陸では、王朝が隋から唐に移り、アジア情勢は激動の時代を迎えていました。

日本は大陸の交流において一国の独立国としての歴史書が必要となりました。そのため、大陸でも読める漢文体が用いられた訳です。

古事記は、大和言葉の訓に表音の漢字を当てて記述されていますので、書紀の対外的な姿勢に比べ、国内的な姿勢が見て取れます。

いずれにしても、日本の歴史は神代から歴史に至る切れ目がなく初代神武天皇から百二十六代今上陛下まで連綿と続いております。

現在王室を持つ国家は多くありますが、日本の皇室ほど古く正統性を保っている国は他にありません。

今年は大東亜戦争終結から七十五年の節を迎えますが、戦後の教育では、皇室に関わる歴史や文化はほとんど教えられていません。

歴史には必ず光と影があります。現代教育では影の部分だけが多く取り上げられ光の部分は矮小化されて教育されてきたのが現実です。

私たちの祖先がダイナミックに積み上げてきた真実の歴史が復活する時こそ日本は自信を取り戻し再び大きく世界に輝く日が来ることでしょう。

今一度古事記や書紀を紐解いて先人の歩みを辿る事は非常に意義深きことと思う次第です。

祭礼行事暦

令和二年元日～令和二年九月

一月

元　旦　歳旦祭
十三日　（成人の日）どんと祭
　　餅つき奉仕
　　青年会・敬神婦人会
　　ブラウブリッツ秋田
　　必勝祈願祭
十八日　青年会新年会
十九日　月次祭

二月

三　日　第七回節分祭豆まき神事
九　日　稲荷神社初午祭
　　（新川町・稲荷町）
十一日　建国記念の日奉祝
　　秋田県大会
十五日　交通安全協会川尻支部
　　安全祈願祭
十六日　肝煎町春祈禱祭
十九日　祈年祭並びに月次祭

三月

十九日　月次祭

四月

四　日　境内清掃打合せ会議
十一日　第一回境内清掃奉仕
十九日　月次祭・疫病鎮静祈願祭
二十日　青年会総会
二十九日　昭和祭・第二十九回
　　秋田県出身特攻隊慰霊祭

五月

九　日　第二回境内清掃
十三日　珍寶神社例祭（毘沙門町）
　　稲荷神社例祭（稲荷町）
十八日　春季例祭宵宮祭
十九日　春季例祭当日祭
二十日　例祭後片付け作業奉仕
　　総代会・青年会

六月

七　日　秋田県鳶土木連合会
　　安全祈願祭
十三日　第三回境内清掃
十九日　月次祭
二十一日　鹿嶋祭り（神前祈禱）
　　西表町・毘沙門町・肝煎町
三十日　夏越大祓式

七月

十一日　第四回境内清掃
　　（雨天中止）
十九日　月次祭

八月

八　日　第五回境内清掃
　　（雨天中止）
十九日　月次祭

九月

十二日　第六回境内清掃
十九日　月次祭

総社神社ご祭礼

十月以降の祭礼行事予定

十月

一　日　観月祭中止
十　日　第七回境内清掃
十八日　秋季例祭宵宮祭
十九日　秋季例祭当日祭
　　併せ教育勅語煥発
　　百三十周年記念祭

十一月

七　日　第八回境内清掃
十五日　七五三参り
十九日　月次祭
下　旬　干支大絵馬揮毫

十二月

第一日曜　干支大絵馬奉納式
十九日　月次祭
　　神社大忘年会
下　旬　煤払い
二十八日　餅つき行事
　　青年会・敬神婦人会奉仕
大晦日　師走大祓式

★本年は年明けより中国武漢から発生した新型コロナウィルスの世界的感染流行の拡大により、神社や地域の祭礼諸行事が中止や縮小せざるを得ない状況となりました。

神社では、毎朝日供祭や月次祭において新型コロナウィルス感染症流行の鎮静祈願祭を斎行。

戸口用の疫病鎮静祈願の神札を奉製し、地域住民の各世帯へ配布いたしました。

神様と地域社会について

総社神社　総代
佐藤　昭弘

私は、総社神社が目の前という立地で生まれ育ち、神社をとても身近に感じております。

朝夕の愛犬と散歩しているときも何故か清々しい気持ちになります。

総社神社は、川尻・山王・川口・旭南南部・楢山南部地区の総氏神様として地域に根ざしています。一部は街区公園として管理されており、子どもから大人まで多くの人がコミュニティの場、憩いの場として活用されております。

川尻小学校校歌の一節にもある「総社の森に風薫る沃野に恵む草木の・・・」と歌われるように、総社神社は欅や銀杏の広葉樹などが生い茂り、緑が多く空気も澄み渡り、特に夏の暑い日でも涼しさを感じさせる地域のシンボルとなっています。

日本人は、古来、山や海、風や火など自然のあらゆる物に神が宿ると信じられてきたからでしょうか。あらゆるものを敬い感謝する心が、私たち日本人に受け継がれているように思います。

日々の暮らしの中においては、五穀豊穣、新嘗祭、初詣、七草、節分、月見など季節の恵みを神様に感謝し、感謝の気持ちを神様に伝え、神様と繋がっていると感じられるお祭りや行事がたくさんあります。

また、祈願で神社を訪れることもあります。

安全祈願、良縁、商売繁盛、合格、必勝、安産、健康など神様にお願いします。神社を通じて神様から、お守り、御札、御朱印など授かり心の支えと感じている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

このように、神様は私たちの心の中に脈々と受け継がれ、神社を通して地域の人々との結びつきを果たしているものと思います。

神様は何かと問われればはっきり答えることは難しいのですが、私たちに恵みを与えてくれる目に見えない崇高な存在だと思います。

今年は、年明け早々に新型コロナウィルスが猛威を振るい、世界中で大きな混乱が起き私たちの生活は一変しました。

また、政治的にも経済的にも不安な時だからこそ、神様に手を合わせ、日々の暮らしの無事と健康に感謝し、幸福と平和をお祈りする心を大切にしたいと思います。

一日も早く、新型コロナウィルスの感染拡大が収束し、皆様のご健康と安全をお祈りいたします。

ひまわり

川尻の鹿島祭り（今年は新型コロナウィルス感染症拡大鎮静を神前で祈願した）

日本酒の本質を醸す

清酒『高清水』醸造元
秋田酒類製造株式会社
常務取締役生産本部長
古木　吉孝

醸造の世界には、「優れた文明をもつ民族は、その民族固有の優れた酒をもつ」という有名な言葉があります。日本酒は日本民族固有の文明酒に違いありませんが、その本質はもっと別のところにあります。それは、日本酒の原料が米だという事実です。米、すなわち稲穂は祭祀において昔も今も重要な穀物であり、神様からの授かりものなのです。その授かりものを原料として醸し出された日本酒もまた神聖な飲み物として神様に捧げられます。

令和二年八月一日、当社は創業七十六周年を迎えました。敷地内に祀られた社では「氏神例祭」の神事が執り行われ、総社神社の宮司様よりお祓いをしていただきました。ここでも、御神酒としての日本酒は欠かせません。

日本酒造りの技術的な源流をさかのぼると、「かむだち」という古語にたどり着きます。「かむだち」は「カビが繁殖したもの」であり、米のでん粉を分解する糖化剤と解釈されています。これは現代の米麹に相当するものであり、『播磨国風土記』には「神様にお供えした飯が枯れカビが生え、それで酒を醸した」と記されています。日本酒造りの根幹はカビ（麹菌）による糖化作用に代表されますが、この技術もまた神様からの授かりものとして登場するのです。『古事記』に出てくる大蛇退治の酒も、『日本書紀』に見られる甘酒も「かむだち」無くしては語れません。

氏神さま（秋田酒類製造㈱）

気が付けば、『高清水』の酒蔵に足を踏み入れてから人生の三分の二が経過しようとしています。全国各地の酒造技師や杜氏たちと酒を酌みかわし、交遊の機会にも恵まれました。そんな折、少しでも今後の酒造りの参考にしようと教えを乞うのですが、彼らの語る内容は不思議と重なります。それは、酒造りの孤独感であったり、仲間たちへの感謝であったり、発酵菌への畏敬の念であったりです。

井神祭斎行

日々の酒造りは、温度や時間や微生物との格闘の連続ですが、名人たちの意識はそれらを越えたところにあるのです。なぜだろうかと盃を重ねるうちに、日本酒の本質が見えてきました。良酒醸造に研鑽はしても、その成果はすべて授かりものなのです。

総社神社創祀 一千三百年記念

総社神社　宮司
川尻　孝紀

総社神社は後四年後の令和六年に創祀一千三百年を迎えます。神社の伝承では神亀元年（七二四年）現在の千秋公園（当時は三森山・三嶽山・神明山・矢留山と称された）の頂きに神明宮（天照大御神）と総社宮（大國主大神・八重事代主神・味鋤高

彦根神）外二十一柱（畿内の神々）の神々が祀られていたと言います。

平安時代、奥州藤原清衡候により社殿が再興され、鎌倉時代は、源頼朝候の命により家臣が社地を経営したと言われています。

のち戦国時代が終わり、徳川幕府家康候の時代に入ると、常陸国を治めていた佐竹義宣候が国替えを命ぜられ秋田に入部します。関ヶ原合戦の翌年慶長七年（一六〇二年）のことであります。佐竹候は居城を三森山に定めたため神明宮・総社宮他摂末社は川尻郷下浜（現在の楢山川口堺）に仮遷座となりました。

その後元禄七年（一六五九年）川尻上野に再び仮遷座し、宝永四年（一七〇七年）九月に現地に本遷座成就し現在に至っています。

現在は川尻・山王・川口・旭南南部・楢山南部の総鎮守として崇敬を受け信仰されています。

総社の森は欅を中心に種々の草木が鬱蒼と繁茂し、幕末から明治にかけ多くの文人墨客が斎館香雲亭に出入りし詩人・俳人等の交流のばとして親しまれたと言います。

俳人奥羽の四天王と言われた吉川五明や明治から大正期に活躍した安藤和風（昭和十一年没）や石井露月等と共に俳諧の指導者として大いに活躍し、総社神社へも足繁く通われたと言います。現在境内にある和風の句碑「稲妻や水にうなづく薄の穂」は往時が忍ばれます。

さて、そういうことで地域住民から広く親しまれてきた総社神社は四年後の令和六年に一千三百年記念の年を迎えようとしています。

神社では記念大祭及び記念事業を計画して参ります。次の千年を目指して国家・地域と共に繁栄できるよう精進邁進してゆく所存です。今後共地域の氏子崇敬者をはじめ広くご賛同ご協賛賜りますようよろしくお願い申し上げます。

秋田犬

日本書紀撰上一千三百年
日本書紀について

日本書紀は第四十代天武天皇の発意により日本初の正式な歴史書「正史」として、養老四年（七二〇年）に完成いたしました。

八年前の和銅五年（七一二年）完成の最古の歴史書「古事記」と共に「記紀」と称されて親しまれてきました。

古事記は、やまと言葉を用い、口承文学としての色彩を残しています。それに対し書紀は本格的な漢文体で記されています。

格調高く、日本の成り立ちや歩みを広く国際社会に向け発信する意図もあったと思われます。

古代の国家・民族には必ず祖先の神話や歴史があります。

記紀も神話が歴史の一部として皇室をはじめ、全国の神社に祭祀や神楽として、伝わっています。

神代の歴史として「神話」は様々な家系に伝承されていたようで、「一書に曰く」と異伝も併記されているのが特徴です。

全三十巻から成り、一巻と二巻は「神代巻」と呼ばれ民間にも有名な物語が伝わっています。

紙面で内容を伝えられませんが、神代の巻の主な題目を上げてみますと「天地開闢」「天照大神のご出現」「五穀の起源」「国譲り、天降り」「神武天皇東征即位」などがあります。

国際化が進む現代に、私たちがまずは自らの拠り所となる「歴史」をしっかり踏まえることで連綿として継承されてきた日本の文化をさらに豊かに発展させることができるのではないでしょうか。

「古事記」「日本書紀」は多くの口語訳や解説本が出版されていますので是非一度紐解いてみてはいかがでしょうか。

花火

令和二年　小中学校児童生徒による
総社の杜俳句・川柳大会優秀作

本年は「祈り・祭り・自然に関わること」を題材にして、小中学校児童生徒より四百二十三点の応募作品が寄せられました。

厳正なる審査の結果、優秀作三十一句が選出されました。

児童生徒たちの素晴らしい作品を是非ご鑑賞下さい。

☆優　秀

そうしゃの木いつもぼくらを守ってる（川尻小六年　佐々木　舜）

木漏れ日がシャワーのようにふりそそぐ（川尻小六年　宮川　結衣）

木の顔が色づき変わる四季の杜（川尻小六年　高橋　亜実）

八月の葉からこぼれる日の光（川尻小六年　疋田　珠理）

地域から愛され続ける総社かな（川尻小五年　木場　楓香）

神様が夢を残した大きな木（川尻小五年　藤原　一颯）

見上げれば光かがやく総社の木（川尻小五年　伊藤　舞亜）

ぬけがらを集めるぼくの夏休み（川尻小五年　福田　久温）

夏祭り総社の杜に灯がともる（川尻小五年　村川　悠乃）

神様も気になるほどのぼんおどり（川尻小五年　堀井　愛月）

絵馬の数その数全て夢の数（川尻小五年　伊藤　蒼真）

大暑の日神社の日陰に風もとめ（旭南小六年　伊藤　慧香）

体育のかけ声ひびく大暑の日（旭南小六年　菅原　翔）

落ち葉たち風にふかれてまい上がる（旭南小六年　鎗目　桃子）

いやされる緑ばかりの夏の木々（旭南小五年　田口　雛美）

気持ちよいすずしい風がすきとおる（旭南小五年　室井　邦仁）

こま犬が神社の前でお出むかえ（旭南小五年　小川　海馳）

永遠に総社の緑つなごうよ（旭南小五年　武藤　心菜）

夏休み神社でいのるねがいごと（旭南小五年　石黒　颯世）

かんとうは神社の神がまいおどる（旭南小五年　志賀　朱音）

日光で光かがやく森の木々（旭南小五年　渡辺　琴子）

扇風機仲間の笑い和らげる（山王中三年　清水　晃祐）

びしょぬれで笑うあの子と水でっぽう（山王中三年　藤田　葵）

扇風機休む間もなき熱帯夜（山王中三年　菅野　碧衣）

願い事夜空を駆ける流れ星（山王中三年　鎗目　麟）

花火にも負けるもんかと一番星（山王中三年　進藤　みう）

エアコンとペンの音だけ響く部屋（山王中三年　高橋　想）

だらだらと汗のしたたる真夏の日（山王中三年　佐藤　大和）

蚊をはたき私カメラマン笑う母（山王中三年　小熊ユミナ）

暑い日や日陰をたどる帰り道（山王中三年　田中　花春）

雨上がり紫陽花の葉にしずくあり（山王中三年　長門　啓貴）

以上三十一句

氷原帯（ひょうげんたい）秋田俳句会　菅原孤秋（こしゅう）　選

選者詠　氷原帯秋田俳句会　菅原孤秋

誰れからも
好かれ絵になる
紅葉山（もみじやま）

◎神宮大麻と神社大麻の初穂料改定について

令和二年五月より神宮大麻の初穂料改定に伴い神社大麻の初穂料を改定いたします。

改定初穂料

神宮大麻	一、二〇〇円
神宮中大麻	一、四〇〇円
神宮大大麻	二、〇〇〇円
総社神社大麻	一、〇〇〇円
総社神社木札（小）	一、五〇〇円
総社神社木札（中）	二、〇〇〇円
総社神社木札（大）	三、〇〇〇円
竈神札（御幣供）	一、〇〇〇円

神棚無料頒布

神棚のないご家庭や職場に伊勢神宮謹製の簡易神棚（壁掛け）を無料で頒布しています。

但し、神宮大麻をお祀りする事が条件です。

神道の知識いろいろ

☆敬神生活の綱領

★神社神道においては、神職をはじめ氏子崇敬者の信仰に対する生活の指針をわかりやすく解き明らめるために「敬神生活の綱領」を定め日常生活の中で唱和して実践に努めています。

この綱領は前文と本文から成り、声に出して朗唱することで自分たちの使命の自覚を促します。

神社関係者の会合では、国旗を掲げ、全員が起立して国歌を二度斉唱し、伊勢の神宮を遥拝し、その後に前導役が、敬神生活綱領の前文を声高らかに読み上げます。続いて本文の一節ずつ前導役が区切って読み上げ、それから全員が声を合わせて本文を唱和します。

以下前文と本文を掲載します。

★前　文

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

★本　文

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

解　説

前文の「天地悠久の大道」とは、神道は教祖・教義・経典などはなく、天地開闢から自ら成る自然に起こった道を指す。人の作れる道にあらず。神の道として歩んでゆく事を言う。

「神慮を畏み祖訓をつぎ」は、神意や神の恵みに畏敬の念を持ち、祖先が伝承してきた教えを継承することを言う。

人類の福祉のために使命感を持って実践することでこの大道はいよいよ高揚していくと言っている。

次に本文であるが、第一節は、私たちは神様の恵みと祖先の努力によって成り立っている。ここに感謝を表す祭りごとに誠意勤めることを言う。

第二節は、神と人との間を取り持って、世のため人のために不完全なところを修理して確かな世に作り上げることを言う。

第三節は、天皇陛下の心意を「大御心」と呼ぶ。陛下の祈りを自分のものとし、国民や他の国の人々とも和親し、自国の隆昌は元より世界人類の共存共栄を祈り実践することを言う。

即ち、この綱領は、日本人としてあるべき心持ちと実践行動の指針をわかりやすく表しています。

君民一体の国柄が永遠に続き、世界の平和と繁栄に繋がってゆくことが我が日本民族の大きな願いであります。

あとがき

今年は新型コロナウィルス感染症が世界的に拡がり、日本もその対策に苦慮しています。

疫病は有史以来発症してきましたが、人類はその都度祈りの行動を起こし、耐え忍んできました。

総社の杜にも色々な祠や石碑がありますが、先人たちの魔除けや祈りの足跡と思われます。

今年の鹿島祭りは残念ながら中止となりましたが、西表町のお面は魔除けの神と言われた鍾馗さまです。唐の第六代玄宗皇帝の夢の中に進士試験に落ち自殺した鍾馗が出てきて魔を祓い、病を癒したことから魔除けの神と言い伝えられています。巨眼、多髭、黒装束、剣を身に付け、如何にも強そうな形相だったようです。

鍾馗さまのような神や新薬で早く収束するよう願っています。

私たちも感染防止のため密閉・密集・密接の三密防止など更に努力を重ねていきたいものです。

（編集委員長　上村　敦記）

編集委員をご紹介します。
宮　司　川尻孝紀
責任役員　上村　敦　廣嶋禮治
総　代　佐藤三郎　芳賀龍平
崇敬会　飯塚洋三（挿絵）